

6. 富田の池

1) 筒井池（富田町4丁目）

もとは米作りのための溜池でした。富田の美田を潤したこの筒井池、別名「紅屋池」と呼ばれていました。

江戸時代、辺りは筒井池を挟んで、約500軒の町屋が連なり、2,000人が暮らす大きな村でした。同時代の観光地図、摂津絵図によると、大きく筒井池が描かれており、造り酒屋でもある豪商、紅屋と隣接していたことに由来、紅屋の庭池にもなっていたようで、その別名についてようです。

昭和40年代までは筒井池（紅屋池）に映る美しい寺の姿として本照寺が紹介される写真が残っています。

それによると、筒井池公園、富田支所と公民館など本照寺のそばまで広がる大きな池であったようですが、現在では、その大半が住宅事情のため埋め立てられてしまいました。

周辺の溜池も次々と埋め立てられたため、溜池を造った先人の苦勞に想いを込めて、地元、漢詩人坂田十松の命名によって筒井公園内に、碑が建てられました。



富水遺澤碑

筒井池公園内にあります。

筒井池は、富田の南の水田を潤すための池で、東岡と南岡の間の谷をせき止めて造られました。

しかし、昭和30年代高度経済成長期に、生活用水や汚水が流れ込み、水質が悪くなり埋め立てられ公園やコミュニティセンターとなりました。

この池の果たした役割と先人の知恵と労苦を讃えるため、昭和45年富田財産区管理会が建てました。

地元の漢詩人坂田十松氏の命名によります。



現在、筒井池は、富田の桜の名所となろうとしています。広場は富田のイベント広場として活用されています